

【中区】平成 31 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 31 年 2 月 4 日（月） 14 時 15 分 ～ 15 時 15 分
場 所	中区役所 6 階 特別会議室
出席者	<p>【座長】松本研議員</p> <p>【議員：2 名】福島直子議員、伊波俊之助議員</p> <p>【中区：27 名】竹前大区長、安藤浩幸副区長、 岩田眞実福祉保健センター長、霧生哲央福祉保健センター担当部長、 太田孝中消防署長、永瀬一典中土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 31 年度中区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>2 その他</p>
発言の 要 旨	<p>議題 1 平成 31 年度中区個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>伊波議員：中区は、多くのお客様もお見えになるし、外国人も多いし、加えて住んでいる方も当然いらっしゃるという 18 区の中でも特徴のある正に中心区だと感じます。何点か、お聞きします。5 ページのスポーツ・青少年のことですが、減額になっていますが、そのうえで新規がいくつかあります。その新規の中で、掘り下げてお聞きしたいのが、区民スポーツの中のラグビーの教室とありますが、小学生のラグビー教室というのはクラブチームと一緒にやっていく感じなのですか。</p> <p>真船地域振興課長：こちらは、クラブチームというよりは小学校に講師をお招きして実施します。</p> <p>伊波議員：一般の小学生が初めてラグビーに触れてみるということですね。</p> <p>真船地域振興課長：あとは、活動がもっと上手になれるようにと、タグラグビーとかをやっています。ラグビー教室にはいくつか種類がありますが、クラブチームというかたちではないです。</p> <p>伊波議員：ダンスとか、去年の「Dance Dance Dance」は、どうしてもダンスをやっている子が中心になって、横浜市で育ってきている子どもたちとか、横浜市立の小中学校に通っている子たち全てに関わってもらいたいが、どうしてもクラブチームとかに入っている子たちだけが参加できるイベントになってしまっているというのがあります。ぜひ小学校、子どもたち、特に学校単位で関わっていただけるよう、ラグビー教室、加えてダンスについてもお願いします。</p> <p>竹前区長：予算の額について、※印にも書いてありますように、スポーツ推進委員と青少年指導員の予算が抜かれています。</p> <p>伊波議員：そういうことですね。</p> <p>森山総務課長：その分は新しくできた予算に別途約 130 万円くらい組み込ませていただきました。</p>

伊波議員：ハローよこはまの来年度ですが、こういうものも他の区ではみんな区民祭りと言い、中区だけハローよこはまと言っています。加えて、今年は開港160年というテーマがあると思います。先ほども触れましたが、小中学校に開港160年のイメージで絵画コンテストをぜひともそういうものをしていただきたいと思います。要望になりますが、例えば、区长賞があるイベント、あるいは何々町内会長賞、そういうみんなが横浜でもなおかつ中区にいるから体験できるということをすごく教育の中で大事にしていける。そういった小学校、中学校単位で参加できるという工夫を御検討いただければありがたいと思いますので、よろしくお願いします。

伊波議員：13ページの地域防災の部分ですが、この事業の中でマリンFMが言葉として初めて出てきます。マリンFMというものも何も本牧だけのものではないので、地域防災力向上で中区全体というとらえ方の中で、防災、区から直接放送に割り込んでいって、緊急連絡としていくとか活用をどんどんしていただければと思っています。

森山総務課長：マリンFMの開設にあたっては、防災視点も中心に据えているということも伺っていますので、できれば防災視点で連携ができないかということ、4月末にオープンされると伺っていますので、これから詰めていきたいと考えています。これも防災の情報伝達の一環としてしっかりと対応していきたいと思っています。

伊波議員：よろしくお願いします。ありがとうございました。

福島議員：3ページの地域連携推進事業のプラットフォームの設立とういことですが、去年はインタビューもしていただいたりして進めていただきましたが、31年度は具体的にどの辺までもっていくのか概略をお聞かせください。

真船地域振興課長：先生方には、インタビューへの御協力、どうもありがとうございました。今年度、現時点、2月1日時点で、15件くらい終わっています。全部で22名の方にいろいろなかたちで話を伺っています。ただそこから、こういう方にも聞いてほしいという御要望も出ていますので、来年度は、上半期まではヒアリングを続けていきたいと思っています。ヒアリングをしていくと、皆さん、それぞれ課題感をお持ちです。本牧を活性化したいというお気持ちが大変強いのですが、課題感は皆様で違います。本牧が活性化する取組というのは一つではないと思っています。既に取組がなされているものもあるため、その取組同士がうまくつながっていく方策はないとか、そういうお話もいただいていますので、本牧を活性化するための手段、方法はどうかたちがあるのかということ、少なくとも来年度末までにある程度まとめたいと考えています。活動は、どんどん支援をしていきたいと思っています。

福島議員：200万円の予算は、去年行ったイベントが継続される場合にはそれを支援したり、地域活動支援担い手育成など、割と柔軟にやっていけるということですか。

真船地域振興課長：元気づくりは、区配事業なので、ある程度ルールがあって団体に対して補助金をお渡しするというかたちですが、こちらの地域連携事業の方は、どういうかたちの支援が地域の方たちにとって有効な支援になるか、手法を含めて考えていきたいと思っていますので、もう少し柔軟なかたちでやれると考えています。

福島議員：4ページの自治会の加入促進ですが、マンションと集合住宅ができますが、基本的には区役所に転居手続き、転入手続きをされるときに促進チラシなどをお渡しして、ぜひ御加入いただきたいということとか、連絡先をお教えになったりしていただいていると思いますが、マンションなどの場合は、多数の入居者がいらっしゃると、地元受入の町内会もなかなか大変で、皆さんが協力できるとは限らないという課題もあります。例えば、この建築計画が把握できた段階で地元も働きかけはするのですが、区役所の方からもぜひその完成の暁には管理組合の協力を得たいというようなことを業者さんに申入れをしていただくとか、指導していただくとか協力を仰ぐというようなことをしていただいたらどうかと思いますが、その辺のお考えはいかがでしょうか。

真船地域振興課長：大規模なマンション等については、事前にある程度、情報が分かりますので、既にやらせていただいています。強制はできませんが、特に大手の業者さんは、自治会的な組織を作ることについてもきちんと御理解いただいていますので、マンションによっては最初から作るというように決めていただいているところもあります。全ての新築マンションに働きかけるというのはなかなか難しいですが、一定規模の大きなものについては私どもも不動産の業者さんと情報共有しながら、理解、御協力をすでにいただいています。引き続き、こういう取組も進めていきたいと思っています。

福島議員：開港記念会館の改修工事ですが、さきほど区長から地下室やステンドグラスの改修についても取組を検討されるというお話でした。完成した後の活用方法は、どのような感じでお考えですか。

竹前区長：活用の方法についても、きちんと考えるべきだということがあります。いろいろな団体、個人の方からの御要望も踏まえながら、どういった活用が一番いいか検証していきます。文化庁とのやり取りをしていく改修工事になりますので、工期もすごくかかります。今、完成予定が平成34年となっており、幸い少し時間がありますので、その中でしっかり考えていきたいと思っています。外周、外壁とか、天井の崩落みたいなことを防ぐための改修に止まらないようなかたちで、しっかりと利用ができること、国の重要文化財を活用しながら利用していただいていること、市民の方が誇りになっていることを踏まえ、しっかりとその活用の仕方については考えていかないといけないと思っています。

福島議員：場合によってはだめな場合もあるのでしょうか、34年までの改修工事の間も利用はできる予定ですか。

真船地域振興課長：全部の期間ではないと思いますが、改修実施設計の結果によつては、大規模になるようであれば、やはり一時的に利用を止めるという可能性もあると思っています。

福島議員：去年の暮れも使えないことがありましたね。

真船地域振興課長：あのときは設備工事をやりました。

福島議員：あのような感じで、時々だめになることもあるかもしれない。

真船地域振興課長：そうです。もう少し大規模なので、もしかしたらかなりの影響がある可能性があるかもしれません。

福島議員：利用申込が多い。人気がある。歴史から非常に皆さん御利用になっているので、代替施設というのか、機能的には困るのかなと思いましたが、分かりました。

福島議員：13 ページの地域防災力向上事業ですが、今年もアトラクション型の防災フェアをやっていただくということで、これはこれとして結構なこととは思いますが、拝見しまして、最後のところのおさらいといいますが、講評みたいなところは参加できなかったのも、皆さんの反応というのは分からなかったのですが、楽しくタッチができるということで良かったと思います。そのうえで、何回か、お願いをしているところですが、先ほどのマンションと同様、マンションごとの防災の取組が進みますように、ぜひ推進をしていただきたいと思っています。西日本豪雨のときに大洲市で非常に地区計画がちゃんとできていて、防災訓練がちゃんとできていて、うまく逃げたというようなことがさかんに今語られるようになっていきます。やはり極力小単位で守り合うというのか、備えができていくことが望ましいと思いますので、どこかモデルケースでいくつか取組が先行的に推進できるところを作ってください。マンションごとの防災計画、取組ができるようにぜひお願いしたいと思っています。また、繁華街の防災についても関心を持っていて、ぜひ繁華街のしかも夜間の防災対策というようなことも商店街の振興ともつながりますので、推進していただきたいと思っています。それから、女性目線の防災ということで、今年は女性の講師の方で人気のある国崎さんが講演してくださるのが楽しみです。こういったことも主催者の育成にもつながると思いますので、ぜひ取組を推進していただくようお願いをしたいと思います。

福島議員：最後の 17 ページの区役所の外構の改修ですが、先ほどのパースではまだよく分かりませんが、方向性としてはどんな感じにするのか。自転車置場が表にあり、なかなか広いようで狭い外構というか、人通りも随分多いのですが、どう整理するのですか。

竹前区長：来年はオリンピックを迎えるということで、ここが非常に人通りの多く、中華街に抜ける人が非常に通る歩道です。それにしても、自転車も置いてあり、狭い感じもしています。道路局、土木事務所と相談して、歩道の部分を少し拡張できないか、検討していきたい。日本大通りが駐輪禁止地域になって

いません。去年、伊勢佐木町の方で駐輪場を作っていただいたおかげで、関内駅付近は一応駐輪禁止地域にはなったのですが、日本大通りとかこのあたりは、まだ駐輪禁止地域になっていません。と言いますのも、駐輪場が無いということです。ですから、道路局ともこれから相談なのですが、うちの前を少し広げて、きちんとした駐輪場を作っていただきたいと考えています。日本大通りも違法駐輪がちょっと多いという話を聞いていますので、駐輪禁止地域に指定できるように考えていきたいとは思っています。これも、オリンピックを迎えるにあたってです。

福島議員：先ほど、午前中にちょうど道路局の方に来ていただいて、そんな話を聞いたところですが、やはり山下公園周辺とか、この中区役所の周辺も、歩いて回遊する。さっきのお花のフェアなどもありますとかなり人出が予想されますが、そこへまた区民も参加したくて、私もこちらの方に自転車で来たいわけです。来たはいいけど、本当に停めるところが無くて、こそこそしながらどこかに止めたりすることになってしまうので、総合的な駐輪対策は、ぜひ道路局さんも巻き込んで、中心区に中心部分に対策をやらないとまずいと思います。災害時には、それが倒れて支障にもなりますので、ぜひ。

竹前区長：道路幅は、1車線、1車線なので、これ以上縮めるわけにはいきませんが、植込みのところ、植栽のボックスみたいなものがある、それをできれば撤去して、駐輪場をそちらへ押し歩道幅を今の駐輪スペースくらい広げられないかと、少し考えています。それについては先生方にいろいろ教えていただきたいと思います。

福島議員：ありがとうございます。

森山総務課長：防災、マンションのお話がありましたが、我々、マンションの関係は何をやりたいかと言いますと、マンションの集合住宅の自治会さんがいますので、3月にそちらを対象に防災・減災の研修をやりたいと思っています。それは、講師を呼んで、震災時のマンションの被災について、マンションの方々とどんなことが考えられるか、対応できるかというのをやっていきます。マンションにつきましては、大中小あると思っています。自治会結成されていないけれども、管理組合があつて管理会社が入っているところ、それからもうちょっと小さいと住民だけというものもありますので、次は、管理会社と意見交換できる場があつたら。今回、URさんの方なので、URさんを交えて、いろいろな方策が考えられればと思います。繁華街につきましては、住民というよりも来街者の方の対応かと思っておりますので、昨年も参加させていただいた取組みみたいなものを踏まえながら、どんなことができるのか考えていきたい。それから、女性目線については、拠点ごとに、例えば最初から女性向けに授乳室設置などを申し上げてきたのですが、それだけではなく、女性が着替えられるスペースが確保できるテントをできれば年度内に買わせていただいて、各拠点に配備できればと思っています。新年度明けてから配備になるかもしれ

ませんが、そういったことも含めて、概念だけでなく、形になるものを作っていければと考えています。

福島議員：ありがとうございます。よろしくお願いします。

松本議員：先ほど、福島先生からもプラットフォームの基礎調査ということで、これからも引き続き調査をしていくということですが、聞けば聞くほどいろいろな提案が出てきて、それをただ聞いただけで、どれをやるかという、また、それはいろいろできること、できないことがあるわけだから、あまり広げ過ぎて、收拾つかなくなってしまうのもちょっと怖いという印象を持っているのと、その中で、ある程度その全部が出揃ってからやるべきことと、個々の提案の中ですぐにでもできるきっかけがあるものであれば、それはできるもの是可以るもので、少し進めていくとか。ですから、何か目に見えてくると、また新しい意見が出てくると思うので、それが全部揃ってから、では皆さんどうしましょうという、いつになるか分からないので、その辺をぜひ御留意をいただければと思うのが一点と、あと商店街の魅力アップということで、僕もちょっとITには疎い人間ですが、クーポンアプリの改修で50万円というのは、どういう仕組みですか。

真船地域振興課長：このクーポンアプリというものは、昨年度、29年度に演劇クエストという名前で、商店街の魅力アップ事業というかたちでやらせていただいたもので、岩崎学園の御協力でアプリを開発したものです。

松本議員：アニメが出てくるものですか。

真船地域振興課長：街歩きをしながら謎解きするものです。

竹前区長：アプリは、その近くに行くと、2割引のクーポンがあるお店の情報が出てくるというようなかたちなので、それを見せれば例えば50円引きになるというものを経済局が岩崎学園とタイアップして作りました。それをいったん期間を限定してやっていたもので、今はやっていませんが、少し改良して、各商店街でそれを継続して使いたい、使えるようにしてほしいということに対応するような改修をしたいというかたちです。

松本議員：そうすると、横浜市全部で前はやっていて、去年で終わったのを中区は中区だけでやるのですか。

真船地域振興課長：もともと中区だけです。

竹前区長：中区の区商連の方と経済局がタイアップして、区役所が間に入って区商連の方々に御理解いただいたので、去年、中区で区商連の加盟の商店街とそのタイアップができました。それが今使える状態ではないので、今年はそれを改修して、また違うかたちで使えるようにしようというような改修を考えています。

松本議員：去年は、実績と言ったらおかしいけれど、その消費者の人たちとか、若い人たちの反応はどうだったのだろう。効果はあったのですか。

真船地域振興課長：全ての区商連の方に御協力いただいたわけではないのです

が、アプリを見ていただいた回数は分かりませんが、クーポンを利用した方が73名でした。

竹前区長：認知度が低かった。それから、さっき課長が言いました演劇クエストと言って、ロールプレイの本を配って、その本を読みながら、謎を解きながら、街を歩く。これは結構本がはけたので、皆さん、それを見ながら商店街巡りをしていただいたということは分かりますが、その本に例えば割引券を付けていれば、その行った商店街でその割引券をちぎって渡せば、どのくらい使ってもらえたのか、どれくらい回ったのかが分かりました。けれども、そういうかたちではなく、アプリと本を別々にしてしまったものですから、アプリの方はアプリで、それから、本のほうは本ということで、本のはけた冊数はすごいのですが、アプリを实际使った人があまりいなかったのではないかとというのが去年の結果だったと思います。連動させるか、どちらかに寄せるかという話もあったのですが、アプリの問題は結局そのアプリを立ち上げて常時通電してないと、オンラインしてないとクーポンが出てこないの、バッテリーがもたないのではないかと、それから、ロールプレイをそのアプリでやるとバッテリーの消費量が多過ぎて一日歩いていると無くなってしまいますので、非常に本の方がいいということで、二つのものが同時並行的にはやったのですが、あまり連動しなかったということでアプリの方がどうもそんなに数が伸びなかったのではないかとということもあります。少しアプリをちゃんと使ってもらえるような改修も含めて考えないといけないと去年ちょっと反省というところではありました。

松本議員：多分、僕も見ただけでよく分からないけれども、おまけに魅力が無いのではないかと。クーポンを見せれば、コーヒーが半分になると言っても、そもそも200円のコーヒーが100円になっても、魅力感じないと思う。そういうアプリ、アプリ系統の話聞いたことがあるのは、人気のあるアニメの作品の中で、例えばどここの商店街で恋人同士があの商品を買ったというのは、すごく日本全国からそのアプリを見て買い物に来るお客さんが絶え間ないという話を聞くわけです。ですから、内容そのもの、そのネットを見て、今の若い人たちが衝動的にいろいろなところを訪れる。実際、アニメの現場を見たり、そこに行って写真を撮るとか、いろいろ魅力はあるけれども、そこで伸びないというのは、やっぱりおまけの方だ。その辺をやっぱり考えないと、せっかくいい仕組みがあっても、商店街に対して、実際お金としての効果というものが出来なければ。全くメリットがないという訳ではない。ただ、商店街のいろいろなところを歩いてもらうという、知ってもらうという部分ではメリットがあるのだろうけど、もうちょっと消費に結び付けるためにはどうしたらいいのかというようなことも、ぜひこれからも検討をお願いできればと思いました。

真船地域振興課長：先生がおっしゃっていただいたとおりだと思っています。最近のアプリはいいものがどんどん出てくるので、改修とは言っていますが、場

合によっては新規開発の方がいい場合もありますので、区商連さんと調整、検討しながら一緒になって進めていきたいと思えます。前回の反省というのは、演劇クエストというのは街歩きにはとてもいい仕組みでしたが、商店街振興という意味で、お店でお金を使っただくというところまでのアプローチが少し足りていなかったということです。今回のこの予算に関しては、その時はそのイベントで終わってしまったのですが、このアプリをまた使いたいという御希望が個別の商店街にもあつたりしますので、改修あるいは新規でうまく使えるもので、区商連加盟の方たちがそれでやりたいということであればやっていきたいということです。それとは別にどうやってお店に来ていただいて、その場でお金使っただくかということも改めて私たちも考えていきたいと思っています。

松本議員：児童虐待で、この前、マスコミでもかなり悲惨な状況が載っていて、横浜もやはりいろいろ虐待の対応件数が増えてきて、区もいろいろ忙しいとは思いますが、中区は現状的にはどういう感じですか。

米澤こども家庭支援課長：全市的には、昨年度、相談対応したのが約 6,800 件くらいです。そのうち、中区は概ね 300 件くらい。そのようなサポートをしています。18 区中 11 番目になりますが、児童人口比率とでもいいですか、人口あたりの考え方でいきますと、3 番目になっていますので、割合としては高めです。

松本議員：中区は外国籍の子どもたちも結構いると思う。日本の子育てと外国の子育てでは違うと思うけれども、そういう国柄によって、例えば外国籍の子どもたちも実際は虐待なのだけれども、どう対応したらいいのか分からない言葉の壁というのは中区ではあるのですか。

米澤こども家庭支援課長：言葉の壁という意味では、最初に発生することがありますが、相手が分からないということであれば、こちらも通訳できる者を連れて行ったりもしますので、そういう意味ではあまり無いかと思います。むしろ言葉の壁は乗り越えて次に踏み込んでいかなければいけませんので、それほど気にはなっていないのですが、やはり先生がおっしゃったように、手を上げることが割と一般的であつたりというような慣習があるような地域ですとなかなか御理解いただけないことがあります。日本においては、こういうことは虐待ですということに粘り強く説明して御理解いただいているという状況です。

松本議員：中区では今対応の件数は概ね 300 件ということで、通報の件数は、どんな感じですか。

米澤こども家庭支援課長：通報の件数としては、すぐは出てこないのですが。

松本議員：大丈夫です。また、何かの時に教えてください。中区はマンションが多くて、僕なんかもそうなのだけれども、夜、窓の外から結構遅くまで、街中なので、子どもの泣き声が聞こえたりはするのです。これは虐待されて泣いているのか、若しくはマンションだから結構声が響いたりとか、どこで泣き声が

聞こえているのか分からないけれども、それが虐待なのかどうなのかちょっと分かりづらい環境と、マンションのどこに誰が住んでいるのかなかなか分からないし、外国の方も多という中で、泣き声が聞こえたからすぐ通報するのはどうかという気もする。そういう面で、それが逆に無関心につながっているということであれば、早期発見については、街中であっても警鐘を鳴らしていかないといけないのかなと思う。そんな意味合いがあって、通報件数は中区はどんな状況なのですか。そういう面で他の区と比べて少なければ、虐待が無いのかと言ったら決してこの数字の300件から見ればそうではないということもあろうかと思うので、その辺のことをちょっと分かるような資料があれば。

米澤こども家庭支援課長：いわゆる通告受理件数ということになるかと思いますが、全市では約5千2、3百件ということになります。これは、残念ながら、区別では出していません。

松本議員：電話があってもやっぱり名前は聞かない、住所も聞かないというのがプライバシーの問題で、時にはある。

米澤こども家庭支援課長：そうです。相手にこちらとしてもなるべく聞くようにはするのですが、言いたくない方もいらっしゃいますので、そういう場合には、どこということとは把握できないということです。

松本議員：分かりました。皆さんも大変かと思いますが、悲惨な状況にならないように、我々も注意はしていきたいと思います。ぜひ、いろんな部分で、また至らない点があれば逆にこうしたらいいというようなことが、もし現場の方から御意見等あれば、また議会の中でもいろいろ議論できますから、実態的なものは我々なかなか分からないので、ぜひ逐次、中区の状況というのをある程度、定期的に教えていただけるといいと思います。よろしくお願いします。

竹前区長：通報については先生がおっしゃるように実際に、虐待なのかよく分からないところがあると思います。しかし、なるべくそういう可能性があれば拾っていかうという方向だと思うので、連絡をしていただくことが兎相の方も必要だというように認識がだんだん変わってきています。初期のうちにそういう通報が何回もあれば、何か起きているのではないかということが分かります。遠慮なさらず、電話を掛けてくださいという感じです。

米澤こども家庭支援課長：すぐ伺って、状況をお伺いしたりして対応しています。実際、泣き声でということで、御連絡いただくこともたくさんありますので、泣き声でも遠慮なく言ってください。

松本議員：はい、分かりました。

議題2 その他

福島議員：この場で、お話しすればいいのか分からないのですが、先ほど花いっぱいとか新しい花のイベントがある中で、道路の使い方というのがあります。本牧一丁目のあたりで、昔、花いっぱい運動というのをやっていて、土木

さんからか、環境創造局さんからだったのか、プランターを提供していただいたりして、町内会で歩道の隅っこにプランターを並べて、十分なお手入れができたりできなかったりなのかもしれませんが、花を飾っていて、みんな綺麗に手入れができているとお褒めいただいたりして、気を良くして頑張っている、そのような感じです。ここへきて土木事務所さんと山手警察署から、ここはやはり道路なので撤去してくださいというお話がきたということです。現場の人は急に言われたということで、どっきりしているみたいで何で急にそうってしまったのだらうと、ちょっとショックを受けていらっしやっています。そういう道路の使用の仕方は非常に課題もあるし、商店街で屋根のアーケードの簡易的なとか、小規模のものもありますが、そのお手入れだとか、道路使用料だとか、ちゃんと取っていらっしやるのか。占用使用料、その辺をちょっと全部は把握し切れていないものですが、それから、放置自転車もあれば、近所の方が植木を勝手に我が物顔に置いたり、あるいは良かれと思って一生懸命お花をいっぱい植えてくださったり、様々ありますけれども、原則は、すっきりと幅いっぱい使えることが大事だと思いますが、先ほどの緑のも合わせて、それから商店街ですと雰囲気づくりとかその辺との折合いが難しいところがあると思うのです。地域で思いがあってやっている。あるいは、そういう思いがかたちとして見たときに第三者から見れば、あまり良く思えない、素敵だと思えないという方たちもいらっしやるのかとは思いますが、そういうものを何かうまく一歩ずつ前に進めるような、下にぱたぱたと置くのではなく、例えば、フラワースタンドにしましょうですとか、そういうコストをかけるのはもったいないから街路樹をもうちょっと何かしましょうとか、道路施設と、道路の使用の仕方と、そういう飾って雰囲気を良くするという市民の気持ちをうまく合わせられるような何かちょっと工夫がお願いできたらと思っていました。土木さんの方向性としては、どうなのですか。

永瀬中土木事務所長：本牧一丁目の内容が、具体的にはよく分かっていないので、職員と話して具体的にどうなのか。ただ言われたということですから、何らかの原因があるのでしょうか、そこは一度確認させていただいて、場合によってはハマロードサポーターになっていただいで、なっているのかということも含めて、改めて確認させていただいて、報告させていただきます。

福島議員：また、具体的に。ありがとうございました。

備 考